

南アフリカ為替週報

2023年5月18日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

<過去1週間の動き>

(5月11日～5月17日)

USD/ZAR: 18.8479～19.5148

ZAR/JPY: 6.91～7.17 (参照値)

先週1週間に南ア・ランド相場は急落し、対ドル及び対ユーロで2020年のパンデミック時につけていた史上最安値を更新し、対ドル19.51まで下落が進んだ。同時に長期金利も急騰(債券価格は下落)しており、同国経済の先行きに対する市場の懸念が強まっていることが伺われる。

ランド急落の要因として、南アがロシアに対して秘密裡に武器や弾薬を提供した疑いがあるとの米国のブリゲティ駐南ア大使の5月11日の記者会見での発言や、電力不足の長期化が挙げられる。

南アとロシアとの歴史的な友好関係は、ロシアによるウクライナ侵攻後、しばしばクローズアップされてきた。しかし、武器や弾薬をロシアに提供していたとなれば、異次元のリスク要因となる。米国の敵対者に対する制裁法(CAATSA)に抵触し、南アが米国の制裁対象となりかねないためだ。

また、5月第2週のランド相場は、ロシアとの武器取引疑惑が持ち上がる前から下落ペースを速めつつあった。ランドの下落の一因となった可能性が高いのは、電力不足が一段と長期化するという懸念である。7日日曜日には発電ユニットが24時間にわたり故障したことで、複数の発電所からの電力供給を無期限に停止したと国営電力会社が発表していた。2023年に入り、5月16日までに計画停電が実施された日数は131日と、既に2022年年間の157日に近づいている。さらに、計画停電には影響が小さいものから大きいものまで6段階あるが、最も深刻度の高いステージ6の実施が頻繁に行われるようになっている。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
5/11	10:30	鉱業生産(前年比)	3月	-7.3%	-2.6%	-7.6%
	12:00	製造業生産(前年比)	3月	-5.8%	-1.1%	-5.6%
5/17	12:00	小売売上高(前年比)	3月	-0.7%	-1.6%	-0.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(5月18日～5月24日)

USD/ZAR: 18.90～19.70

ZAR/JPY: 6.90～7.30

先行きも、南ア・ランドに対する下落圧力は続くだろう。

週明け5月15日以降は、米国による南アへの経済制裁のリスクは後退し、ランドもやや持ち直す展開となっている。ゴドングアナ財務相は5月14日に同国がロシアに武器を供給したと主張する米国との対立は既に解消したと述べ、この対立で何らかの影響が生じる可能性は低いとの見解を示している。ゴドングアナ氏によると、米国がこの件で南アに対し懸念を表明してきたのは2か月前のことであり、南ア政府は安全保障担当顧問および独立した判事に調査を依頼するとともに、緊張緩和のために米国へ代表団を派遣したとしている。ブリゲティ駐南ア大使も自身の発言について、南ア政府に謝罪したと述べている。しかし、今回の件によって、南アとロシアとの歴史的な友好関係が改めてリスク要因としてクローズアップされたことは否めない。

地政学リスクへの懸念が一段と後退したとしても、ランドは積極的なサポート材料が見当たらない状況だ。短期金利市場ではランド相場下落を受けて、南アフリカ準備銀行(SARB)による次回5月25日の会合での50bpの追加利上げが完全に織り込まれたが、相場の安定化にはつながっていない。SARBは通貨安に伴う輸入インフレを抑える必要もありタカ派姿勢を示しているものの、計画停電に伴う景気の減速リスクを考慮すれば、一段の政策金利引き上げ継続も困難な状況となっていよう。米インフレ懸念の再燃に伴う米金利上昇・ドル高や、米債務上限問題への懸念、さらには主要輸出品目である金属価格が下落傾向にあることも、ランド相場にとって重石となろう。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

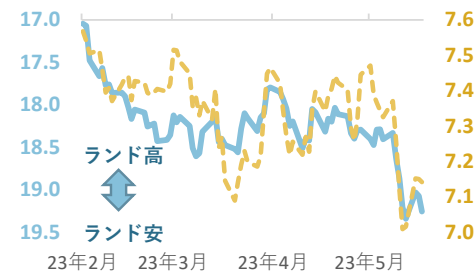
月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
5/24	09:00	CPI(前年比)	4月			7.1%
	09:00	コアCPI(前年比)	4月			5.2%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

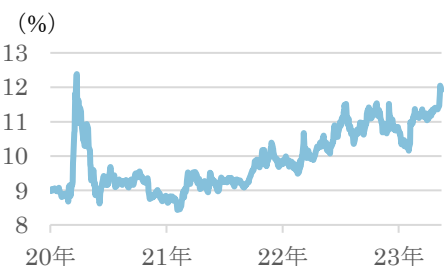
南ア・ランドの推移

実線: 対ドルレート(左軸、逆目盛)

点線: 対円レート(右軸)



南ア 10年国債利回り



市場の2か月後金利織り込み(*)



* 2か月後スタート、期間3か月のフォワードレートから、3か月JIBARを差し引いている。

(資料:ブルームバーグ)

<文責>

欧州資金部

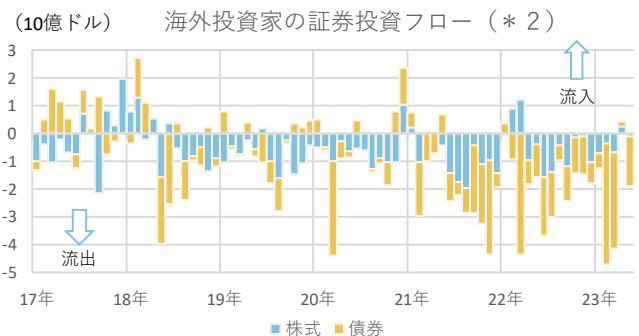
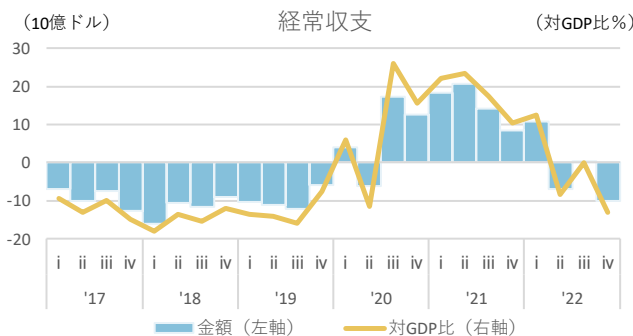
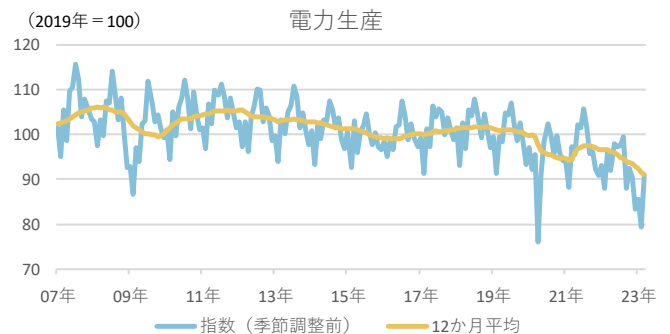
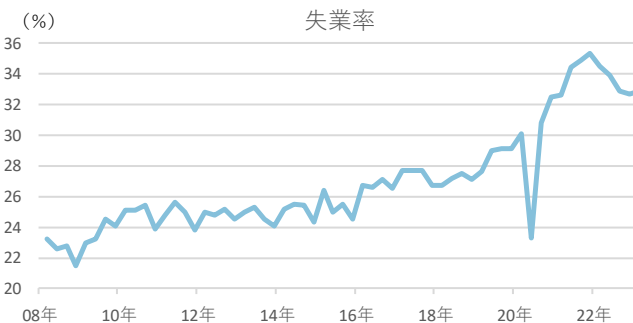
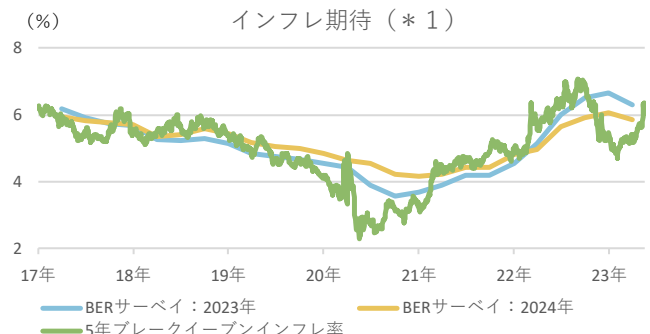
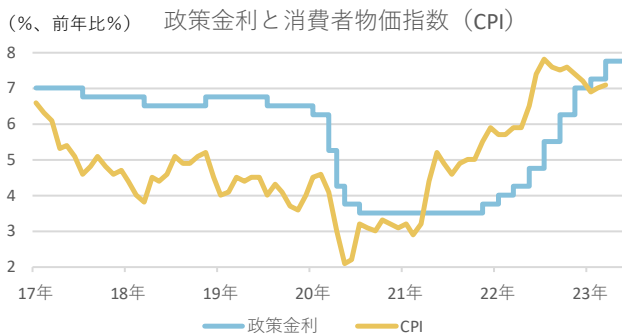
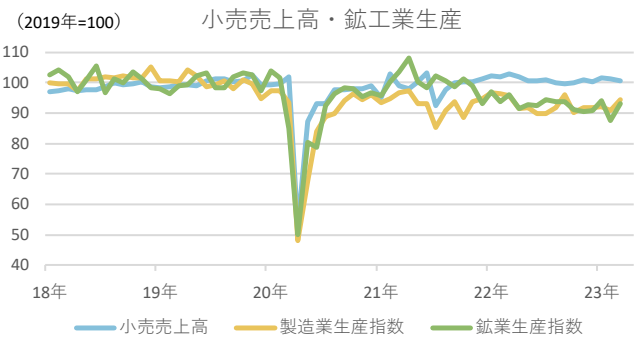
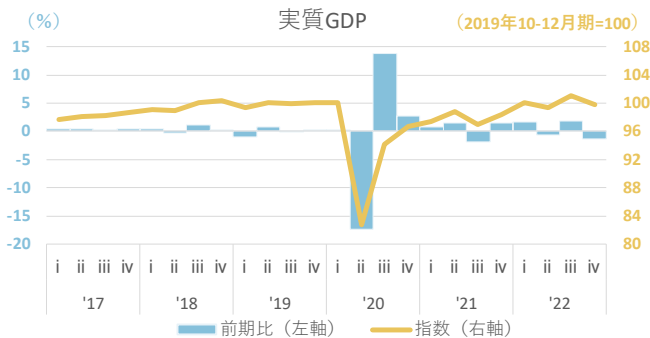
シニア為替ストラテジスト

中島 将行

masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

<主要経済指標の推移>



- * 1 : BERサーベイは南アフリカ経済調査局 (Bureau for Economic Research) による四半期ごとの調査。経済アナリストや企業などが調査対象となっている。ブレイクイーブンインフレ率は物価連動国債から算出される、市場が推測する期待インフレ率。
- * 2 : 月次データ。ただし、2023年5月は1日から16日までの累計値。

(資料 ; 南アフリカ準備銀行/南アフリカ統計局/南アフリカ経済調査局/ヨハネスブルグ証券取引所/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。